



社会民主党
松本 匠
議員

▼眉山トンネル問題について

Q 安全性の問題について①掘削工事現場での剥落についての施行監理委員会見解を踏まえた市の認識はどうか。②地震との関係性はどうかになっているのか。

A ①雲仙復興事務所によると、トンネル坑口から百四十四メートル付近の先端部で掘削中に剥落が発生し、天井部の土砂が約四十立方メートルはがれたとのことである。掘削工事は、土砂が落ちないように地下水への配慮からセメントだけの注入材で補強しながら進めている。その補強材の継ぎ目から土砂が剥落したものである。この規模の剥落はトンネル工事では考えられる現象と聞いており、その後、安全対策として、眉山トンネル工事施行監理委員会で十分に検討され、十一月二十八日には工事現場説明会も実施されて、安全であると市民の方に確認していただいているということである。

②トンネルは周辺地山と一体に挙動するため、地表の構造物に比べ地震の影響が少なく耐震性にすぐれた構造物と聞いている。

Q 地下水との関係について①地下水・湧水の涵養源はどこか。②眉山周辺の地下水の流れの見解と、上の原上水との関係はどうなっているのか。

A ①眉山トンネル等技術検討委員会の資料によると、地下水は普賢岳を含む広い範囲から供給され有明海の方向へ流れていると考えられている。また、普賢岳付近で降った雨は、長い時間かけて難透水層の下に地下水となり滞留すると思われる。一方、眉山付近に降った雨は、難透水層より上に滞留してゆっくりと海側に進んで地下水や湧水になると推測されている。②眉山周辺に降った雨がしみ込み、れきや砂から成る透水性のよい層を浸透し、眉山トンネルの約二十五メートルから約三十五メートル下方にある地下水位に到達して、その地下水が上の原の水源になっていると考えている。

Q 避難路、救急患者搬送路、渋滞解消路として有効か。

A 幹線道路が一本しかなく、噴火災害時に孤立した経過がある。また、外港から北門間で交通渋滞が頻発している状況もあり、市内中心部の渋滞緩和や災害時の代替道路として役割を担うものである。また、県央地区への所要時間の短縮により、高度な医療機関へのアクセスが容易になるなど、市民生活において重要な道路だと考えている。



政策研究会
中川 忠則
議員

▼島原市の「事業仕分け」について

Q いつごろから実施する考えなのか。

A 行政評価委員会において、できる部分から年度内に取り組んでいただきたいと考えている。

Q 若い世代に島原に住んでもらうために税金は使えないのか。二十二年度の政策は。

A 農漁業・商工業後継者育成のための研修費の補助、農業後継者として就農した場合の支給制度等、後継者を育てるために、物産流通対策本部を通してもうかる農漁業・商工業をつくる取り組みを始めたところである。今後は、五つのビジョンの一つに掲げている人づくりということで、地域の伝統芸能にいそむ若者の育成を行いたい。

Q 市民税、固定資産税を使う順序はどれが決めるのか。

A 一般財源なので、優先的な使用順位は決まっていない。

▼地域主権について

Q 国と地方が協議をする場を法制化するということのようだが、その中で県と市は

一緒に多くの取り扱いになるのではないのか。

A 地方六団体との協議の場でも、市町村が混乱することのないよう、事前協議を十分にしてほしい旨を全国市長会会長も申し入れたところである。

Q これまでの陳情はどう変わるのか。

A 各自治体からの陳情を政権与党の県連で集約し、中央へ上げることになる。

▼道路行政について

Q 眉山トンネル中止と島原道路計画の見直しの署名数一万五千二百六十九名をどう考えるか。

A 名水百選にも選ばれており、市民が水に関心が高く湧水等の枯渇を心配されるのはわかるが、科学的にも十分調査されているので、その結果を尊重したい。

Q 島原一諫早間の道路建設促進について。

A 早期の調査区間への格上げとルート決定への要望を引き続き行う。

Q 長池三会線を有明支所まで延長させる計画について。

A 地域の意見を聞いて判断したい。

▼第一小学校の建てかえについて

Q 基本設計はどのように協議されたのか。

A 耐震化検討委員会や地区懇談会での要望も取り入れ、PTAへのアンケート結果、教職員との協議、児童の意見も参考にした。